

地域の課題解決に向けて取り組む団体

県内各地では、地域の未来を担う人材の確保や魅力ある地域社会の形成に向けて、様々な取組が行われています。このコラムでは、地域の課題解決に向けて取り組む団体を紹介します。

空き店舗等を有効活用した多世代交流の拠点づくり 〔東部地域〕

◆きつきちョビコ（杵築市）



子ども食堂の様子

きつきちョビコは、杵築市内の地域交流の促進やこどもの育成等を目的に市内の女性4人で設立されました。

子ども食堂や空き店舗を活用した夜市などを開催し、親子が気軽に集い、交流できる憩いの場づくりを行っています。

また、店舗の空きスペースを高齢者のミニデイの場として活用することで、子どもから高齢者まで世代を超えた交流を行うなど、福祉の視点も活かした商店街の活性化にも取り組んでいます。

医療機関がハブとなった地域ネットワーク組織の新たな形 〔中部地域〕

◆さがのせきのささえ（大分市）

さがのせきのささえは、地域の住民同士が支え合う持続可能な地域づくりを目指し、医療機関が中心となり令和5年2月に有志6名で設立されました。

現在は、医療機関に加え、大学生グループや地域団体、地元企業等も参画し、スマホ教室や居場所づくり（カフェの開催）、お祭りなどのイベント支援を行っています。

地域を支えてきた医療機関がハブとなり、地域を維持していくための新たなネットワークが構築されています。



ふれあいカフェでのスマホ教室

社会人野球チームの創設による新たな若手人材の確保 〔南部地域〕

◆（一社）佐伯市ベースボールイノベーション協会（佐伯市）



佐伯市ベースボールイノベーション協会は、大学卒業後も一線で野球を続けることを希望する大学野球部員の受け皿として設立され、佐伯市内の企業の協力のもと令和7年春の始動に向けて取組を進めています。

選手は、給与保障のある協会野球部に3年間所属した後、地元企業の社員として勤務する予定のため、県内外からの若者の呼び込みと地域への定着が期待されています。

また、選手は、部活動の地域移行の際の指導員としても活動が可能なたため、地域のスポーツの競技力向上に向けた人材確保につながることも期待されています。

地域総ぐるみで里山を次世代に継承 〔豊肥地域〕

◆NPO法人里山保全竹活用百人会（竹田市）

NPO法人里山保全竹活用百人会は、竹田市の里山の保全活動や竹を活用した文化活動を行っています。

竹田の城下町に約2万本の竹灯籠を灯す「竹楽」は、幻想的な竹灯籠を見に3日間で10万人以上が訪れる一大イベントとして、地域に活気をもたらしています。

また、小学校での出前講座や里山保全親子森林教室を開催するなど、竹田の豊かな里山を次世代に継承するための活動に地域総ぐるみで取り組んでいます。



たけた竹灯籠「竹楽」

キッチンカーを活用した温泉街の魅力向上と災害対応力の強化 〔西部地域〕

◆大分県西部地域キッチンカー連絡協議会（日田市）

大分県西部地域キッチンカー連絡協議会は、イベント出店の円滑化や被災地での避難所への食事提供等を行うため、令和6年2月に31店舗で設立されました。

旅館業者等と連携してキッチンカーマルシェを開催し、観光客にまち歩きを楽しんでもらうなど、地元温泉街の魅力向上に取り組んでいます。

また、大規模災害時には避難所にキッチンカーを派遣し、被災者に温かい食事を提供する取組も進めるなど、キッチンカーの機動力を活かした被災者支援にも取り組んでいます。



筋湯温泉でのキッチンカーマルシェ

先輩ママによる子育て中の移住者への支援 〔北部地域〕

◆NPO法人アンジュ・ママン（豊後高田市）

NPO法人アンジュ・ママンは、豊後高田市内で3か所の子育て支援拠点（花っこルーム）を運営しています。

スタッフの多くは元利用者であり、子育て中のお母さん同士が気軽に相談し、交流できる場所となっています。

また、県外から移住してきた子育て世帯の利用も多く、子育て世代の移住者が地域とスムーズにつながる拠点としても重要な役割を果たしています。



花っこルーム